

2025 年度 一般社団法人日本臨床検査医学会 臨時社員総会 議事録

日時：2025 年 11 月 24 日（月曜日：祝日）11：00～12：00

開催方法：WEB（Zoom ミーティング）

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-2 UI ビル 2F

出席：現地；大西宏明理事長、森兼啓太総務理事、諏訪部章監事、山田俊幸監事（4 名）

Web；約 70 名、議決権行使；123 名

I. 開会

II. 理事長挨拶（大西宏明 理事長）

当法人定款第 21 条により大西宏明理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり社員数 175 名のところ社員出席、議決権行使、委任を合わせて半数を超える（130 名超）ため、定款第 24 条により臨時社員総会での決議は成立することが報告され、議長（理事長）のほか、評議員の森兼啓太先生を議事録署名人と定め議事を進めた。

III. 報告事項

第 1 号議案

1. 各種委員会活動報告（森兼啓太 総務理事）

2024 年度各種委員会中間活動報告について、各委員会のまとめが資料として用意され、次項のとおり報告された。

1) 編集委員会（委員長：下澤達雄、担当理事：吉田 博）

- ①日本臨床検査医学会誌（和文誌）は 2025 年度まで毎月発刊してきたが、2026 年からは隔月刊に変更となる。
- ②和文誌の投稿論文の論文審査について検討を行った。
- ③英文誌 Laboratory Medicine International (LMI)は順調に年 4 回発刊できている。
2025 年・第 4 巻は 1 号（3 月）、2 号（6 月）、3 号（9 月）が発刊され、4 号（12 月）が発刊予定である。
- ④LMI のシステム体制として ScholarOne Manuscripts と J-STAGE 搭載は今後も継続される。
- ⑤LMI 専用の WEB ページを作成中である。

2) 教育委員会（委員長 植木重治、担当理事 山崎正晴）

- ①【主催】第 37 回関東・甲信越支部総会 RCPC（指導医講習 2 単位）2025 年 11 月 15 日 出題者・解説：松本剛
- ②【共催】第 2 回医学生・研修医のための臨床検査セミナー（指導医講習 2 単位）2025 年 9 月 7 日 RCPC
講師：松本剛、ファシリテーター：山口宗一、中村文彦、植木重治
- ③【第 72 回日本臨床検査医学会学術集会 教育委員会企画】2025 年 8 月 30 日 RCPC（指導医講習各 1 単位）会員アンケートを実施。RCPC1 座長：松本剛・常川勝彦、出題者：千藤荘、回答者：志谷映璃・宮下竜伊、RCPC2 座長：中村文彦、井戸健太郎 出題者：藤井聡、回答者：水谷信介・松尾収二 企画調整：上岡樹生
Catch Up セミナー（領域講習各 1 単位）セミナー1 司会：志村浩己 演者：石丸裕康、セミナー2 司会：松下弘道 演者：湯地晃一郎、セミナー3 司会：山口宗一、演者：仁井見英樹

3) 保険診療委員会（委員長：松下一之、担当理事：森兼啓太）

- ① 委員会開催：令和 8 年（2026 年）診療報酬改訂（中医協での議論）に向けて 2025 年 10 月現在、診療報酬調査専門組織（医療技術評価分科会）において評価が行われている。
- ② 2026 年度診療報酬改定に向けた活動
・日本臨床検査振興協議会への参加：診療報酬改定小委員会、診療報酬制度小委員会。
- ③ 日本医師会・疑義解釈委員会への対応
・月 2 回程度開催され、特に供給停止予定の体外診断薬連絡に対して正副委員長または委員会への意見収集（メール審議）がなされている。現在のところ異議申し立ては行われていない。

④新規保険収載項目の情報提供

- ・日本臨床検査薬協会との共同作業により、新規保険収載項目の情報を監修し、会員メール、日本臨床検査医学会誌、ホームページを通じて会員に提供している。

4) 学会賞委員会（委員長：飯沼由嗣、担当理事：井上克枝）

- ①2025年6月17日（月）に Zoom 開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（柳沢龍氏）、検査・技術賞（該当者無し）、若手研究者奨励賞（太田悠介氏）、優秀論文賞（石嶺南生氏）。
- ②2023年度より募集要項を変更し、学術賞と検査・技術賞のどちらかの賞のみ受賞できることとしたが、以後検査・技術賞は応募が無い状況である。学術賞と検査・技術賞のありかたをふくめ検討を行うこととなった。

5) 学術推進化委員会（委員長：浅井さとみ、担当理事：井上克枝）

- ①2025年度学術推進プロジェクト研究として7課題の応募があり、2課題を採択した。
- ②2024年度採用学術推進プロジェクト研究課題の中間報告2課題を受理した。
- ③2025年1月「2024年度学術推進プロジェクト研究課題応募開始のお知らせ」を全会員に向けてメール配信した。
- ④2023年度学術推進プロジェクト研究課題採択者2名による最終報告発表が8月の学術集会（幕張メッセ）で行われた。
- ⑤2023年度学術推進プロジェクト研究課題採択者1名より最終報告書および会計報告書が提出された。

6) 標準化委員会（委員長：木村孝穂、担当理事：増田亜希子）

- ①「臨床検査値 学生用共通基準範囲」の改定作業を行っている。
- ②Lp(a)の標準化作業継続中。
- ③血中および尿中 C-ペプチドの標準化作業を継続中。

7) 精度管理委員会（委員長：小池由佳子、担当理事：堀田多恵子）

- ①CAP 国際臨床検査成績評価プログラム中間報告：
参加施設は、118 施設であり、2024 年度最終報告数からは 19 施設減かつ 2 施設増で、最終的に 17 施設減となった。
- ②臨床検査室グローバルニュース報告：年 4 回、毎号約 10000 部発行している。精度管理委員会の各先生方に精度管理の重要性をインタビューする記事を順次掲載する予定である。引き続き記事の確認、英文翻訳の校閲も行っていく予定である。
- ③第 1 回精度管理委員会（9 月 30 日に Web 開催）報告：例年通り CAP サーベイ活動報告と 2026 年度カタログおよび関連書類の承認、今後のスケジュールについての確認を行った。

8) EBLM 委員会（委員長：佐藤雅哉、担当理事：下澤達雄）

- ①第 72 回日本臨床検査医学会学術集会にて委員会企画講演、テーマ：「進化する医療 AI・医療 AI の基礎と発展」、座長：佐藤雅哉、佐藤正一。ハンズオンセミナー、座長：佐藤雅哉、片岡浩巳、演者：山下哲平（R を用いたデータ解析の基礎：データ前処置とエラー対処）では、実践的な R を用いた実践応用を行った。
- ②EBLM 委員会のウェブサイトにおいて委員会活動記録の更新を実施した。

9) 倫理委員会（委員長：木村孝穂、担当理事：柳原克紀）

2025 年 8 月 29 日に第 72 回日本臨床検査医学会学術集会において委員会企画として「インフォームド・コンセンストと学会発表における倫理～入門編」のタイトルで講演をおこなった。本講演は日本専門医機構の専門医共通講習として実施した。

10) 利益相反委員会（委員長：山崎正晴、担当理事：柳原克紀）

利益相反管理事業についての理事会への諮問

2025 年 8 月 29 日に開催された利益相反委員会において、1) 外部委員の推薦、2) 学会の「医学研究の利益相反（COI）に関する指針」および「細則」の改定案、3) 日本医学会 COI 管理ガイドライン 2025 の学会 HP

掲載、4) 学会の組織 COI 開示、5) 役員などの COI 自己申告書の改定について審議し、その内容を理事会に諮問した。(2025 年 9 月 29 日)

11) ガイドライン作成委員会（委員長：政木隆博、担当理事：吉田 博）

- ①臨床検査のガイドライン JSLM2024 を発刊した。
- ②従来の COI 指針や細則の中で、日本医学学会ガイドライン策定参加資格ガイダンス（2017 年度版）からの引用箇所が最新の 2023 年度版に改訂されることになった。
- ③臨床検査のガイドライン JSLM2024 に関して、AI 利用に関する権利委託を学術著作権協会に申請した。
- ④第 72 回学術集会（幕張）会期中の 2025 年 8 月 31 日にガイドライン作成委員会を開催した。臨床検査のガイドライン JSLM2027 発刊に向け準備を開始した。
- ⑤第 72 回学術集会（幕張）において、2025 年 8 月 30 日に臨床検査のガイドラインに関する委員会企画セッション「臨床検査のガイドライン 2024 の概要とトピックス」を開催した。オンデマンド配信も併せて行った。

12) 検査項目コード委員会（委員長：内海 健、担当理事：松下一之）

- ①「電子処方箋・電子カルテの目標設定等について」（厚生労働省：2025 年 7 月 1 日）では、JLAC11 を厚生労働省標準規格として、電子カルテ等の標準仕様で統一的な検査コードとして位置付けされた。
- ②検査項目コード委員会からの委託を受けて、JLAC センター（康センター長）が開設され検査項目コード委員会との協力体制が強化され、「JLAC センター付番部門審議委員会」にて新規体外診断薬を中心にして JLAC コードの付番を行っている。
- ③JLAC11 コード表について、日本臨床検査医学会ホームページ上にて情報を公開した。随時更新継続している。
- ④JLAC センターにおける JLAC11 の付番・採番に関して、今後、医療機関の意見集約を行い、検査項目コード委員会と合同でルールを策定する。

13) 広報委員会（委員長：千葉泰彦、担当理事：下澤達雄）

- ①レジナビフェア東京に出展した（2025年6月、東京）。去年に続き、2回目。
- ②レジデントノート「検査のTips」が、2025年7月号、第100回で終了。過去の記事が、2025年6月からオンラインコンテンツとして順次閲覧可能となった。
- ③8月の学術集会で、広報委員会企画「学会の未来を担う人材をどう勧誘し育てるか？広報の視点から考える課題と展望」を開催した。
- ④JACLaS EXPOに出展した（2025年10月、横浜）。

14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：松下弘道、担当理事：堀田多恵子）

- ①2023年11～12月に行なったアンケート調査「ポストパンデミックの臨床検査体制」の結果の一部を日本臨床検査医学会雑誌に投稿した。
- ②2022年11～12月に行なったアンケート調査「COVID-19パンデミックと臨床検査体制」2023年11～12月に行なったアンケート調査「ポストパンデミックの臨床検査体制」について、感染症に関する部分を合わせて英文投稿する準備をしている。
- ③2025年8月～9月に「臨床検査室の取り組みと課題に関する全国実態調査2025」アンケート調査を行った。

15) 遺伝子委員会（委員長：松井啓隆、担当理事：松下一之）

- ①2025年度学術集会にあわせて委員会を開催し、令和 7 年度 厚生労働科学特別研究事業「LDTの臨床実装に向けた研究」班会議の取りまとめ案を共有し、LDTの有り方に関する意見交換を実施した。
- ②同じく2025年度学術集会時に全ゲノムワーキンググループのミーティングを行い、進捗状況に関する情報共有を行った。

16) 国際委員会（委員長：下澤達雄、担当理事：井上克枝）

- ①2025 年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し國宗勇希、畑山祐輝、佐藤直和の 3 氏を受賞者として推薦した。

- ②World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM) 2025 (Oct14-17, 2025、インド) における JSLM セッション The Frontier of Infectious Disease Testing にて、村上正巳先生座長のもと上原由紀先生: Molecular epidemiology of MRSA from the clinical laboratory. 宇野直輝先生: CRISPR gel: a molecular diagnostic tool for infectious diseases. 上養 義典先生: Quantitative measurement of infectious disease antibody titers using smart devices.にご講演をお願いした。
- ③2025 年度 ASCPaLM 学術集会に康東天先生にご講演 Common-Use Reference Interval and Japan Laboratory Code (JLAC)をお願いした。Board Meeting に下澤と康先生が出席。来年は 10 月 2 日-4 日に台北で開催される。

17) 医療安全委員会 (委員長: 三枝 淳、担当理事: 森兼啓太)

- ①第 72 回学術集会におけるシンポジウム (委員会企画)「医療事故と医療安全: 事例から学ぶ」を企画・実施した。演者: 清水郁夫先生、小松康宏先生、渡辺卓先生。座長: 森兼啓太担当理事、三枝淳委員長。
- ②第 72 回学術集会会期中に医療安全委員会会議を現地開催し、第 73 回学術集会時委員会企画について検討した。次回のテーマとして、医療 DX と医療安全に関する内容が候補に上がった。企画を進めている。

18) 会則改定委員会 (委員長: 浅井さとみ、担当理事: 増田亜希子)

- ①定款の改定について: 社員総会参考資料等の電子提供措置の導入
- ・社員総会参考資料等の電磁的提供措置を可能とするため、定款の改定案が検討された。
- ②細則「臨床検査士資格認定制度運用規則」の改定について
- ・「臨床検査士資格認定制度運用規則」の第 2 条と第 4 条の 2 カ所について、資格認定試験を「実施」を「支援」に修正した案が検討された。
 - ・改定案について理事会で審議した結果、継続審議することとなった。

19) チーム医療委員会 (委員長: 小谷和彦、担当理事: 山崎正晴)

- ①パニック値の運用に関する提言 (公開中) への照会対応。パニック値の全国調査の報告。
- ②チーム医療における臨床検査とその専門家の役割に関する検討; 日本臨床検査技師会からのタスクシフトへの提案への関与 (予定)。

20) 学術集会企画委員会 (委員長: 吉田 博、担当理事: 柳原克紀)

- ①第 71 回学術集会は 2024 年 11 月 28 日 (木) ~12 月 1 日 (日) の日程で、大阪市 (会長: 日野雅之) にて現地およびオンデマンド配信で開催された。
- ②第 72 回学術集会は 2025 年 8 月 28 日 (木) ~31 日 (日) の日程で、千葉市 (会長: 大西宏明) にて現地開催された。2025 年 9 月 18 日 (木) ~2025 年 11 月 28 日の期間にオンデマンド配信が行われた。
- ③第 73 回学術集会は 2026 年 12 月 17 日 (木) ~20 日 (日) の日程で、千葉市 (会長: 吉田博) にて現地およびオンデマンド配信で開催予定である。
- ④第 74 回学術集会は 2027 年 11 月 11 日 (木) ~14 日 (日) の日程で、宇都宮市 (会長: 森兼啓太) にて現地およびオンデマンド配信で開催予定である。
- ⑤第 75 回学術集会については 2025 年 10 月 10 日に常任理事会において学術集会長推薦者が確認され、理事会および社員総会の議を経て決定される。
- ⑥日本医学会 COI 管理ガイドラインに則った本学会の COI の指針・細則の改定案が利益相反委員会から学術集会に関連する事項について審議依頼され、詳細の運用について今後の議論を踏まえつつ提案のとおり承認された。

21) ワークライフバランス委員会 (委員長: 西川真子、担当理事: 松下弘道)

- ①9 月 7 日に「第 2 回医学生・研修医のための臨床検査セミナー」を web 形式で行った。
- 参加者は医学生 12 名、医師 65 名(うち初期研修医 7 名、臨床検査専攻医 14 名)であった。
- ②第 72 回学術集会で、委員会企画を行った。(前半:「知っておくべき超音波検査の基本/ハンズオンセミナー」、後半:「検査医の集い: 対面懇親会」)。
- ③臨床検査専門医取得に関するサポートセンターには継続的に相談があり、随時対応をした。
- 件数は男性 10 名、女性 3 名。

22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会（委員長：湯地晃一郎、担当理事：堀田多恵子）

- ①2025 年度第 1 回委員会を開催（8 月 29 日）。
- ② 第 72 回学術集会にて特別シンポジウム 1「JLAC11 が駆動する未来の医療：臨床検査データの二次利用と持続可能な保険医療体制の構築に向けて」を開催（8 月 30 日）。
- ③生活習慣関連臨床団体拡大会議に湯地委員長がオブザーバー参加。
- ④HL7 FHIR に関する NeXEHRS 課題研究会に堀田担当理事、湯地委員長、市村委員参加。

23) 地域医療における臨床検査に関する委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：森兼啓太）

- ①臨床検査専門医の所属する地域と施設を学会ウェブサイト上で公開した。
- ②この公開が、地域における臨床検査に関する専門的相談や専門医を目指す医師のキャリア構築に関する相談などへの契機になる。

24) ICD-11 委員会（委員長：後藤和人、担当理事：吉田 博）

- ①社会保障審議会統計分科会 ICD 専門委員会に後藤委員を派遣した。
- ②厚生労働省から依頼のあった ICD-11 改正内容および ICD-11 for MMS の追加・変更分の和訳の確認作業について回答を行った。
- ③ICD-11 準拠の統計分類表（基本分類表、疾病分類表、死因分類表）は、2026 年 1 月の官報告示、2027 年 1 月 1 日の施行が予定されている。

25) 感染症に関する委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：森兼啓太）

沖山先生（日本赤十字社医療センター 救急科、アイリス株式会社 代表取締役）より依頼のあった「nodoca に搭載された AI による COVID-19 診断機能」について、委員会内で慎重に検討を重ねた。AI 技術の将来性は評価しつつも、現時点では検査結果が「High」「Medium」「Low」の三段階で示され、特に「Medium」の比率が高く解釈が難しいこと、「High」でも感度が 24.7%と低く偽陰性が多いこと、「Low」でも特異度が不十分で除外診断としての信頼性に欠けることが指摘された。これらの点から、臨床的有効性や実用性が十分に確立されたとは言えず、学会として推奨は困難である旨、丁寧な文書で回答した。

26) 専門医制度委員会（委員長：松下弘道、担当理事：吉田 博）

- ①前委員会からの移行段階の対応もあって、2025 年 1 月より活動を開始した。正式には同年 4 月より委員会活動を行っている。
- ②名誉臨床検査専門医の規定およびアメリカ AP/CP 資格保持者の専攻医研修要件について、日本専門医機構に問い合わせを行うための原案を作成した。
- ③臨床実績代替のための筆記試験について準備を進めている。

27) 遺伝子関連検査精度管理医に関するアドホック委員会(委員長：松井啓隆、担当理事：松下弘道)

- ①遺伝子関連検査精度管理医制度を決定し、2025 年度学術集会において会員への周知を行った。また学会ウェブサイト に情報を掲示した。
- ②遺伝子関連検査精度管理医制度に関連した e ラーニングコンテンツを整備し、公開した。

28) 評議員審査委員会（委員長：大西宏明）

評議員で 2026 年 1 月 1 日付再任該当者を抽出し、委員会、理事会に再任予定者として報告した。また、該当者に再任手続きの書類を送付した。

29) 受験・更新資格審査委員会（委員長：金子 誠）

下記について、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

- ①2025 年度臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格審査

- ②第 17 回臨床検査管理医 講習・認定試験実施と合格判定、専門医の管理医申請者 1 名分について認定
- ③2026 年 1 月 1 日付の臨床検査管理医の更新資格、臨床検査専門医資格者からの管理医申請、
名誉臨床検査専門医についての審査
- ④臨床検査専門医認定試験の過去の問題の一部を臨床検査医学会雑誌に掲載する

30) 試験委員会（委員長：金子 誠）

- ①第5回日本専門医機構 認定 臨床検査専門医認定試験（15名の希望者全員が受験）・第42回日本臨床検査
医学会 臨床検査専門医認定試験（1名の希望者は受験を辞退）を2025年8月3日（日）に東京大学で実施
した。
- ②試験委員会・試験実行委員会合同合否判定会議を、同月14日（木）東京大学検査部医局（web併用）で開
催し、試験運営・採点・合否判定に問題ないことを確認した後に11名を合格と判定した。

31) 2025年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：佐藤雅哉）

- ①第 5 回機構専門医試験、第 42 回臨床検査専門医認定試験は、東京大学本郷キャンパスにて 2025 年 8 月 3
日（日曜日）に 1 日で執り行われた。
- ②機構専門医受験者 16 名、学会専門医受験者 1 名の申込があった。
- ③機構専門医受験者 1 名、学会専門医受験者 1 人より試験辞退の申し出があり、計 15 名（全員機構専門医
受験者）が受験を行った。
- ④2025 年 8 月 14 日に東京大学本郷キャンパスにて行われた委員会判定会議では、機構専門医受験 15 名中
合格 11 名（合格率 73.3%）と判定された。
- ⑤学会専門医試験は 2025 年で終了となり、2026 年に第 6 回機構専門医試験を実施予定（日時、会場は未
定）。

32) 2024・2025 年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：金子 誠）

第 17 回臨床検査管理医講習・認定試験を 2025 年 9 月 23 日（火・祝）に実施した。33 名の受験希望者のう
ち 33 名受験し、33 名全員が合格となった

33) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会（委員長：松下弘道）

- ①2026 年度基幹施設の研修プログラムの一次審査認定を行い、日本専門医機構に二次審査依頼をした。更新
申請 4 施設（5 年目にあたる施設）、新規申請 3 施設、変更申請 30 施設であった。
- ②2025 年実施の日本専門医機構認定臨床検査専門医認定試験受験希望の専門研修修了書類の審査を実施し
た。

34) 日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：金子 誠）

- ①研修・資格更新の Q&A 拡充を継続しており、ホームページも整理して改変した。
- ②専門医更新時に、更新者への対象テストの方法を検討した。日本専門医機構より、「更新試験は、不合格と
することが目的ではなく、専門医の知識のアップデートを目的」であることを確認し、「各領域において更
新にふさわしい内容を検討すべき」とのことで、受験回数、内容、合格保留者に対する追加課題などを検
討した。

第 2 号議案

2025 年度中間事業報告について

2025 年度各種委員会中間活動報告、中間事業報告がなされた。

なお、11 月 1 日の理事会後に、理事、監事、元常任理事等で会員・専門医の増加に向けた方策についての検
討会を開催し対策を検討したことが報告された。

IV. 決議事項

第1号議案 2026年度事業計画案について（大西宏明 理事長、森兼啓太 総務理事）

2026年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

第2号議案 2025年度会計中間実績・2026年度予算案について（大西宏明 理事長、吉田 博 会計理事）

2025年度中間実績：2025年1月1日～2025年6月30日の実際の収入と支出の実績額である。

2026年度予算案：収入、支出とも2024年度予算をほぼ踏襲しているが、日本臨床検査医学会誌が隔月となること、英文誌のPubMed Centralへの登録およびIF獲得を目指すための専用ホームページ作成費用、遺伝子関連検査精度管理医運用費用、eラーニング収入などがあるため、それを反映した予算となっている等の説明があった。

諏訪部監事より、一般会計からアジア交流基金への移行についての質問があり、アジア交流基金への移行は一般会計の諸会費からの支出であること、また学術集会の収支差額からの入金により変動があるため、会計決算時での報告となる可能性があるとして吉田会計理事より回答がなされた。

近畿支部山崎支部長より第13回特別例会補助金の金額は150万円となっているが50万円ではないかとの質問があった。これについては、吉田会計理事より物価上昇があり、また、内容も充実いただくため、150万円で理事会で承認されており間違いはないという回答があった。しかし、再確認したところ実際には50万円とすべきだったことが判明し大西理事長より、理事会でも承認されていることであるため、予算はこのままとするが、予算執行での配慮が求められた。また、諏訪部監事よりこの予算建ては慣例としないと言及があった。

以上の質疑応答後、2025年度中間報告、2026年度予算案は承認された。

第3号議案 定款の一部改定について（大西宏明理事長）

電磁的方法により社員総会の招集通知の送付、議事・資料の提供、出欠、議決権行使、委任状提出を実施するための改定案が提示され、承認された。

第4号議案 評議員の再任について（2026/01/01付）（大西宏明 理事長）

2026年1月1日付評議員再任予定者26名が提示された。再任手続きは、2025年12月26日開催予定の評議員審査委員会での審査後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、本日の臨時社員総会の承認を得ておきたいこと、ただし再任の単位を満たさない場合は退任となることを前提のうえ、2026年1月1日付の評議員再任予定者26名について承認された。

第5号議案 2026年度からの社員（評議員）の推薦について（大西宏明 理事長）

評議員（社員）として、各支部から推薦され理事会で承認された次の15名が提示され承認された。

東北支部から齋藤紀先先生/鈴木英明先生、関東・甲信越支部から梅村啓史先生/志方えりさ先生/渡邊広祐先生、東海・北陸支部から朝比奈彩先生/菊地良介先生/森永芳智先生/山下計太先生、近畿支部から武村和哉先生/松村康史先生/山本正樹先生、中国・四国支部から辻岡貴之先生/大塚文男先生、九州支部から賀来敬仁先生。

第6号議案 第75回学術集会 会長の推薦について（大西宏明 理事長）

2028年開催予定の第75回学術集会の会長として、理事会で承認された高橋聡先生（札幌医科大学）が提案され、承認された。承認後、高橋先生から一言挨拶があった。

森兼啓太総務理事より、2025年度に係わる定時社員総会は、2026年3月28日（土）に開催されることが報告された。

V. 閉会（柳原克紀 副理事長）

柳原克紀副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2025 年 11 月 25 日

一般社団法人日本臨床検査医学会 臨時社員総会

議長 理事長 大 西 宏 明

議事録署名人 森 兼 啓 太